2006

喫茶店の店舗計画

Plan of The Tea-room

AD 08　大森　結実
指導教員　比留間　真

1.研究目的

行きつけの喫茶店で、時間を気にせずゆっくりとしたひとときを過ごしたいと感じる人は多いと思う。喫茶店・ジャズバーは東京都心を中心に数多く点在し、大型チェーン店でも雰囲気を重視した店舗が近年増加している。

かくいう私の実家も自営業でギャラリー喫茶を営んでおり、連日常連客でにぎわっている。

そこでその店を全面改造し、将来計画として新しい形でプロデュースしようと試みた。

2.調査と分析

●中央線に位置する阿佐ヶ谷の周辺調査結果

年に数回、世間のイベントごとに街全体がジャズフェスタを行う。吉祥寺に並び、阿佐ヶ谷には古くから続く喫茶店やジャズバーが数店点在している。定期的にジャズライブを行う店舗は2～3店ほどで、その他はジャズ・ロック・ブルース等の音楽を流すことで店内をその雰囲気に変えていた。また、駅や大通り周辺に居酒屋が多いせいか、夜中まで営業する自営店も少なくない。

●モデルとなる喫茶店「対山館」の周辺調査結果

飲食店を主とした商店街「一番街」に位置し、中華飲食店の隣に店を構えている。商店街は全体を通じ、夜間が活動的である。同業者が多く、おたがいに互いの店をよく行き交うといった親交が多い。町内では様々なイベントを催し、阿佐ヶ谷のジャズフェスタに参加する店舗もある。音楽好きが多く、商店街イベントの際には野外演奏を行うバンドもいれば、定期的に店の中で店主が生演奏を披露するジャズバーも存在する。

●対山館の経営スタイル

昼の部は軽食をメインに喫茶店、夜の部はお酒を主としたバーを営んでいる。定期間のギャラリーを常設展示。今までの常連になじみ深い雰囲気を引き継ぎながらも、新しい形式で希少性を潜めた店である。夕方５時から７時までは準備時間で木曜定休日。

3.コンセプトの立案

「昼と夜で異なる顔を持った店舗」

・手間をかけずに画期的に店内の雰囲気を変えられる設備の提案

・地域密着型

4.デザイン展開

●店舗経営スタイル

基本的な経営スタイルは変えずに、ギャラリーの他にジャズライブというオプションを設ける。

●敷地・外観

店内全面改造の為、自宅分の敷地を取り除き、今までの敷地面積を倍近く拡げる。昼と夜で出入り口が異なり、陽気な日にはオープンカフェ形式に扉を開放し、風通しを良くする。夜間は扉を閉め、間接照明による店内の雰囲気が窓越しに外から確認できる。照明はギャラリーとライブ用に、スポットライトと固定されたライトを天井数箇所に設置。明るさの微調整はボタンで調節できる。店内隅にある扉はスタッフの勝手口、店の非常口として機能する。テーブル・イスの高さは昼と夜で調節が可能。

●バーカウンター

可動式にし、昼と夜で使い勝手が異なる。ビルトインキッチンを収納する。カウンターの足はキャスターが付いており、床には溝のレールがはめ込まれている。

5.完成図

6.結論

現経営者であるクライアントの両親に検証した結果、上手くまとまっているとの好評を得た。しかし夜の入り口が狭くて暗いので進みにくいことや、ギャラリーとジャズライブのメイン同士が対立してしまい、依頼する側の人にとってのニーズが限られてしまう、という経営視点の意見も出た。

現実味を帯びた問題改善が今後の課題となる。

7.参考文献

・日本建築学会編　『建築設計資料集成』

・阿佐ヶ谷ジャズストリート
http://www.asagayajazzst.com/